

ガザミ類の種苗量産技術開発事業

島 袋 新 功

1 目的および内容

タイワンガザミは、内湾の砂～砂泥域、ノコギリガザミは比較的大きな河口～内湾の砂泥地域に分布し、主に刺網で漁獲される。いずれも商品価値は高く、本県における沿岸漁業の重要漁種である。

ガザミ類の生息域は内湾に限られ、移動は小さく、成長が早いいため、その種苗放流を行うことにより、生産増大が期待される。本県では、県営栽培センターにおける種苗生産放流事業の対象魚種の一つとして、ガザミ類を計画している。同センター建設の関連事業として、栽培漁業技術開発事業（同報告書、1981年）が進められ、その一環としてガザミ類の産卵期調査、タイワンガザミの種苗生産試験を行った。

2 要 約

1) 産卵期調査

- イ. 沖縄市漁協に水揚げされるガザミ類を毎月1回購入し、産卵期調査を行った。
- ロ. タイワンガザミの雌雄比は、57 : 43 で雌の割合が多かった。
- ハ. タイワンガザミの雌ガニは、体重約 100 g から外卵を保有し、大型個ほど卵量は多く、体重と外卵重量とは正の相関がみられた。外卵保有個体は、調査開始時（6月）から10月までみられた。
- ニ. ノコギリガザミの試料は少なく、外卵の保有個体は得られなかった。

2) タイワンガザミの種苗生産試験

- イ. ふ化幼生の飼育を、ワムシ、貝肉等を投与して、0.5 トンパンライト水糖と10トンコンクリート水槽で、種苗生産試験を行った。
- ロ. ふ化幼生は、ゾエア期（1～4令、9日間）、メガロバ期（2日間）を経て、11日後に稚ガニに変態した。
- ハ. 稚ガニの生産尾数は、合計 8,400 尾、生残率 1.4～4.2%であった。